

四旬節第2主日

マルコ 9・2 - 10

2018.2.24

高円寺教会 18:30 ミサ

クラレチアン宣教会 梅崎 うめざき たかいち 隆一神父

福音を味わいながら、この聖書の箇所においてミサの本質がよく表れていると感じました。高い山は人が神様と出会う場所。そこで旧約聖書の預言者を代表するエリヤと律法を代表するモーセの言葉を聞く。ミサの朗読の中で私たちは旧約聖書の中での御言葉を聴き、イエスを語る福音によってその意味が明らかになっていく。それを私たちは、今日味わっている。福音の話は過去の出来事としてではなく、ミサの中で同じ体験をしていると信じている。そして、イエスの服が輝くように、人間というものの本質のすばらしさがイエスによって明らかにされたことを私たちは今体験しています。

社会の中では人間の本質の素晴らしさを表している人は、認められた人というイメージが強い。しかしイエスのメッセージはそうではありません。社会の中では有名になった陶芸家とか画家などの芸術家、つまり自分の内にあるものを見える形で表現することに成功した人。それを多くの人に認められ時に人間として輝く、そんなイメージがある。あるいは才覚を表すことのできた政治家とか知識人、トップアスリートとかメダリストのみが輝く、そのように考えている。この世で結果を残した人のみが手に入れる栄冠というイメージです。

イエスの輝きはそうではありません、人の内にある輝きというのは誰の内にもあって、偉い人やたくさんの人が夢中になるから価値があるというのではなく、いつも人の心の中に輝いている。

世界で最初の小学校を作ったペスタロッチは、ルソーという人が「人間の本質は善である」と語ったことを真面目に信じて、それをどうやったら実現できるのかと考えた。やがて彼は世界で最初の小学校を作ることになりました。彼の小学校には戦争孤児や貧しい子どもたちがたくさんやって来ました。ボロをまとった子、全身しらみがたかっている子、やせて骸骨のようになった子、年寄りのようになってしまった子、あるいは疑いの目つきでこちらを睨みつける子、恥ずかしくなるような嘘を平気でつく子など、そんな子どもたちが大挙してやって来ました。小学校の中で寝食を共に過ごして3ヶ月経つと、子どもたちに変化が起こったことに気づきます。子どもたちは素直になり、目は輝き、健康になった。それは今日の変容の体験と同じものです。ペスタロッチは確信しました。人は泥水の中を這いずり回るような人生を過ごしたとしても、教育によって変わっていく。だから、全ての人間は教育を必要としている。教育に

よって、人間の本当の素晴らしさが明らかになるのだ。それを確信するわけでは
す。ですから、子どもたちの本来の価値を認めず、子どもたちを不幸にする教
育機関があるとすれば、そこでは教育が成立していないと言わざるを得ま
せん。

これはキリストを信じる者こそ何よりも大切にしなければならない価値であ
るはずで、教育者やペスタロッチに任せるだけではなくて、教会の中でも私
たちは人の持っている輝きを輝かせるためにどうしたら良いのかを真面目に考
えていく必要があります。

イエスは人からいじめられて殺されましたけれども、人が認めなくてもその
価値はゆるぎがないということも教えてくださいました。イエス生前、私が復
活した後、弟子たちに宣べ伝えるようにと言われていましたが、弟子たちはイ
エスのように自分たちも殺されることを恐れて、誰にも話さずにいたため、復
活したイエスが弟子たちを叱っておられます。

ミサにおいて私たちは復活したイエスに出会い、イエスのおん体とおん血に
よってイエスと同じものとなって社会で生きていきます。人から認められず、
イエスのようにいじめられることがあつたとしても、人の内なる輝きを示すこ
とによってこの世の闇の中に輝く光となっていくことができますよう共に祈り
しましょう。